

米原歴史街道

米原市の歴史・文化財を歩く

146

縄文人の楽園・まいばら① ―いち早く定住生活が始まる―

縄文時代始まる

日本列島での人類の活動は、約二万年前からようやく明らかになります。旧石器時代とよばれる最終氷期のまっただ中で、気温は現在より七、八度ほど低かったと考えられています。四国・九州と本州は地続きで、海水面は現在より一〇〇メートルほど低かったようです。

縄文時代が始まる約一万五千年前から、約六千年前には、今より二、三度高く、温暖化が進みます。このため、縄文時代が始まるころには、コナラなどのドングリが豊富な落葉広葉樹林の占める割合が増え、気候や植生の変化からナウマンゾウなどの大型獣は絶滅し、イノシシやシカなど今のよう動物相に変わりました。

動物の変化は縄文人の生活にも大きく関わり、狩猟具では、投げ槍の有舌尖頭器に変わり、素早い小動物の捕獲に適した飛び道具・弓矢が登場します。さらに、日本列島では約一万五千年前に最初の土器が出現します。煮る・ゆで

るなどの幅広い食品加工が可能となり、主要食料となるドングリなどの堅果類のあく抜きにも用いられます。そして、地面を掘りくぼめた堅穴住居が登場し、定住生活が始まります。

縄文人の食卓

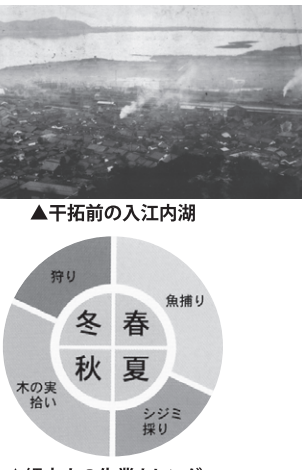
琵琶湖の南端で見つかった日本最大級の淡水産貝塚・粟津湖底遺跡(大津市)の発掘調査成果から、縄文人の食事が木の実と魚介類が中心だったことが分かりました。春から夏は魚介類などの水産資源、秋から冬は木の実などの森林資源を利用する四季の暮らしがうかがえます。

東に伊吹山と霊仙山、西は琵琶湖と内湖、北は姉川の源流。山々からは姉川や天野川によって土砂が運ばれ「坂田」郡の名のとおり上流から湖岸へ徐々に低くなりながら、扇状地・氾濫平野・三角州が形成されます。その最下流には磯山などの山塊が琵琶湖に迫り、内湖を作る複雑な地形の米原市では、縄文時代の全時期を通じて市域全体で遺

跡が営まれました。

春から夏は、目の前の琵琶湖や入内湖で、産卵のために岸辺に押し寄せてきたウグイやフナ、コイを一網打尽です。シジミなどは秋口まで盛んに取り、土器で湯がいてむき身にしました。このように春から秋は豊富な魚介類を大量捕獲できます。秋から初冬には、湖のヒシの実を集め終えて、森に入ります。トチの実に始まり、オニグルミ、クリを拾い集め、晩秋のイチイガシで収穫を終えます。冬にはイノシシやシカの猟に力を入れ、木の実の料理で温まりながら春を待ちます。縄文人にとって、食料資源量の季節的变化が小さく、一年を通して食料を維持しやすい米原は「縄文人の楽園」だったのです。

(歴史文化財保護課)



▲干拓前の入江内湖

消費生活相談コーナー

5月は消費者月間です!

2019年 月間統一テーマ

「ともに築こう 豊かな消費社会～誰一人取り残さない 2019～」

消費者、事業者、行政が一体となって消費者問題に関する啓発、教育などの各種事業を集中的に行っています。



消費生活相談員より一言

新たな生活に少し慣れたこの時期は、若者を狙った悪質商法も増える傾向にあります。突然の訪問や見知らぬ人からの電話などには、十分注意しましょう。

「おかしいな」と思ったら
一人で悩まず、
まずは消費生活相談窓口へ
ご相談ください。

市 消費生活相談窓口 (米原庁舎)

相談専用 ☎52-8088

【受付】平日9時30分～16時



【米原警察署情報】 問 米原警察署 ☎52-0110

「アポ電強盗」にご注意を

アポ電強盗とは

子どもや身内、警察官や金融機関職員を名乗り、高齢者宅へ電話をかけ、自宅に現金を置いているかどうか聞き出してから強盗に入る手口のこと。

現在、県内では未発生ですが、今後発生する可能性も十分考えられます。

「アポ電強盗」被害に遭わないために…

犯人は言葉巧みに家族構成や自宅に保管している現金の額などを聞きだそうとしますが、個人情報は電話では絶対に話さないようにしましょう。不審な電話があれば、すぐに警察に連絡を!



平成31年市内交通事故数(3月末時点)

件数 22件(-3件)、死者 1人(+1人)

傷者 31人(-4人)

※()内は前年比